

提言書素案に加筆することが望ましい項目・視点について

委員から提出された提言書素案を取りまとめるにあたり、加筆することが望ましい項目や視点を、正副委員長の意見をもとに事務局で整理したもの。

テーマ：こどもをとりまく社会教育のあり方について—学ぶ喜びと居場所のために—

全般事項

- ・現状の課題を踏まえて提言を述べられるよう、課題となる点を明確化する。
(課題をまとめた上で、施策の提案または調査を促す等)
- ・各論の冒頭に、『はじめに』として、今回の調査先の概要や、調査先の選定理由等を述べる。

地域グループ

(1) 学び

②大人の学び(こどもを取り巻く大人)

(2) 居場所のあり方

②大人の居場所のあり方

内容の棲み分け

外国グループ

- ・冒頭に市が公表する外国人住民等に関するデータを引用すると理解しやすい
- ・外国にルーツを持つこどもと社会教育との関わりについての課題、社会教育と繋がるために何ができるのかという視点

(1) 学び

①支援する側にとっての学び

②利用する側にとっての学び

→テーマが「こどもをとりまく社会教育」であるため、まず初めにこども(=利用する側)視点での学びについて述べてみてはどうか
(一義的には「こどもの学び」であり、「こどもの学び」に係ることが支援者の学びにもなる、という流れが分かりやすいのではないか)

(2) 居場所

②社会教育の居場所

→国見小学校の事例は学校が主体となって実施している取組であるため、①学校教育の居場所に含まれるのではないか
→学校教育でカバーできないところについて、社会教育にできることはないか

③外国にルーツを持つ人にとって、居場所とは何か

→日本語で言う「居場所」が外国のこどもにとってニーズがない場合、どんな場にニーズがあるのか、その場を作るために社会教育ができることはあるか

(3) キーパーソン（人とのつながり）

●①②通じて、「こどもの学び」にどう結び付くかという視点で作成する必要があるのではないか

①地域の人の事例（キーパーソンの種類、後継者育成、人材確保の支援等）

→国見小学校の事例から、学校教育としてではなく、社会教育として何を見いだせるのかという視点でまとめる必要があるのではないか

((4) 行政の支援 ②居場所づくりの機会醸成、場所の提供 ○国見小学校の調査結果より も同様)